

GDウォール工法 講習修了書用チェックシート

●耐震改修設計・施工説明書で、GDウォール工法をご理解して頂いたか、確認欄にチェックしてFAXして下さい。

GDウォール工法について

1. 適用範囲

〈レ点確認欄〉

・建防協発行「木造住宅の耐震診断と補強方法」2004年・2012年版の適用が可能な専用住宅及び併用住宅で、木造軸組工法、伝統工法及び立面的混構造の木造部分、平屋から3階迄、延べ床面積500㎡以下とする

2. 適用条件

・①壁の片面補強用、②室内側の壁補強用、③1階において、補強壁の直下に基礎があること、④両端に柱があること、⑤上下に横架材があること、⑥上下隙間が次の寸法以内におさまること、上隙間310(250)mm・下隙間155mm、⑦柱サイズが105角以上又は90角以上、⑨壁の連続配置の制限条件を満足すること。

3. 設計

・引き抜き耐力が8.5kNを超える場合、同梱のGDコーナーはほぼ補強金物として取付け(引き抜き耐力0kNと扱う)、別に、引き抜き耐力相当の柱頭・柱脚金物を設置しなければならない。※耐力の足し算できない

4. 設計・施工

・GDウォール工法に使用する構造用合板は、JAS規格・2級以上・I類又は特類・厚み12mmを使用。

5. 設計・施工

・構造用合板に穴を開ける場合、一箇所の壁に3箇所以上開けない。・合板受桟を切り欠かない。・穴の大きさは内径150mm以内(四角い場合は対角線寸法)。・穴同士は200mm以上離す。
・構造用合板の縁から100mm以上離す。

6. 設計・施工

・壁の中央に間柱がある場合は合板受桟を勝たせ、干渉部分は間柱を切り欠き加工し、本補強施工と繋げない。

7. 設計・施工

・合板受桟は重要な部材なので、切り欠いたり、途中で切断したり継ぎ足すことは絶対に行わない。

8. 施工

・GDビスは、頭がめり込まないように施工して下さい。

9. 施工

・真壁・入隅仕様の縦受材を付けるジョイテクトL130は、柱上部ビス(ジョイテクトL90)を兼用するため縦受桟を取付ける柱には、柱上部ビスは打込みません。(部材不足になる為注意して下さい)

10. 確認

グランデータ・ドラゴン・ウォール工法 耐震改修設計・施工説明書を読み、設計・施工方法を理解しました。

上記注意事項等を厳守し、マニュアルに従って設計・施工いたします。

令和 年 月 日

フリガナ

会社名 : 役職/部署 :

フリガナ

氏名 : 生年月日 : S・H 年 月 日

会社住所 : 〒 -

会社電話 : - - 会社FAX : - - 携帯 : - -

送付先FAX : 042-523-7816

ご質問等は、メール又はFAXにてお願いします : info@grandata.co.jp